

LONSEAL

CSR報告書

2021

 ロンシール工業株式会社

編集方針

「LONSEAL CSR 報告書2021」は、投資家の皆様、お客様、お取引様、地域社会、従業員などのステークホルダーの皆様、ロンシールグループの企業価値向上に向けた取り組み内容をわかりやすくお伝えすることを目的としています。企業としての社会的責任を果たすことで社会から信頼される企業となり、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

「参考にしたガイドライン」

- ・環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

「報告の対象期間」

2020年4月～2021年3月(一部対象期間外の情報を含みます。)

「使用している写真」

一部対象期間外の情報を含みます。

目次

編集方針、目次	1	環境 (Environment)	14
社長メッセージ	2	•安全・安定操業	
企業理念	3	•環境	
事業案内	4	社会 (Social)	16
製品と製品開発	6	•働きがいのある職場環境	
•塩ビ樹脂について		•ダイバーシティ	
•環境対応製品		•雇用の確保と人材育成	
•安全・安心な製品		•品質	
•研究開発		ガバナンス (Governance)	18
CSRの取り組み	11	•ガバナンスの強化	
		•取締役	
		•内部統制	
		•コンプライアンス	
		会社概要	21

ロンシールグループは
持続可能な社会の実現に向けて
社会課題の解決に真摯に取り組むとともに
企業価値の持続的な向上を目指します。



CSR報告書発刊にあたり

当社は「人と地球にやさしいものづくり」を企業理念に掲げ、1928年の創業から今日まで、人が豊かで心地のよくなる製品・環境と安全に配慮した製品を提供し続けてまいりました。特に社会が抱えている課題に対し真摯に取り組み、例えばシックハウス症候群が社会問題となったときは製品の低VOC化を実現、ヒートアイランド現象が問題視されはじめたときは屋根の温度を下げる事が出来るシャネツシートを開発・販売、また昨今の新型コロナウイルス感染拡大以前から抗ウイルス製品の開発・販売を行う等、当社の長年積み上げてきた技術をもとに様々な社会課題を解決する製品を世に送り出してきました。また、ものづくりの過程でも環境と安全に配慮し、例えば省エネルギー設備の導入や産業廃棄物削減、リサイクルの推進等、積極的に取り組んでおります。

近年、「持続可能な社会の実現」が大きく取り上げられております。当社は70年近くもの間、環境負荷の小さい塩ビ樹脂加工を軸にものづくりに取り組んでまいりました。しかし、不確実性が非常に高まっている激動の社会の中で、「持続可能な社会の実現」における「当社の社会的責任」を更に果たしていく必要があります。それを推進する組織として2022年1月に「CSR推進室」を発足しました。CSR報告書というかたちで社会的責任に対する当社の取り組みを発信することで、ステークホルダーの皆様にご理解いただくとともに、企業の持続的な成長と企業価値の向上を目指していく所存です。

2028年、当社は創業100周年の記念すべき年となります。またSDGsの期限である2030年を目前に控えた年でもあります。当社が生業としているプラスチック加工も大きな転換が訪れることでしょう。その中で、塩ビ加工・プラスチック加工の真の役割を見出し、当社の存在意義を問い直し、ステークホルダーをはじめとする社会に価値を提供し続けてまいります。

今後とも皆様のご支援と一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

人と地球にやさしいものづくり

人が毎日の暮らしを過ごす、さまざまな生活空間。

ロンシールは、床材、壁紙、建築防水など、それら生活空間に携わる製品づくりを事業領域としています。

生活空間をより快適にするための技術と品質を常に追求すること。

そして人の暮らしを少しでも過ごしやすくすること。

それが暮らしをより豊かにし、よりよい社会を築くために少しでも役立つと、ロンシールは考えています。

そのためにロンシールはものづくりを通じて、「社会にとって価値ある企業」であろうとしています。

高度な技術と品質で快適生活空間を創造し、社会に貢献するために、人と地球にやさしいものづくりを目指します。

事業案内

ロンシールは床材、壁装材、防水材、フィルムをさまざまな産業へ提供しています。

建装事業部



人が集う、家族が憩う

居住空間の基本を支える、ロンシールの床材

独創的な発想と先進の技術力を活かし、環境保全と安全性に配慮した床材を開発し、学校、医療福祉施設、生産施設、マンションの外廊下など、さまざまな生活空間に床材を提供しています。

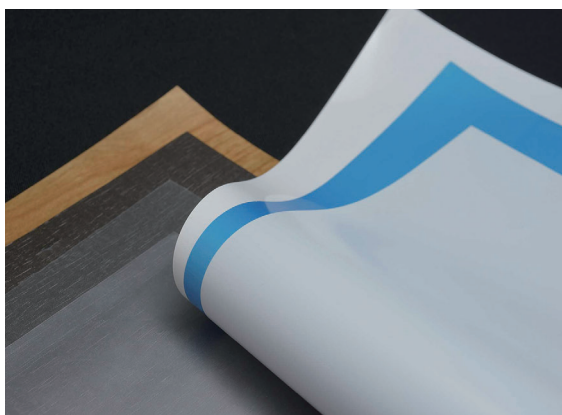
壁装・産業資材事業部



住空間をやさしくコーディネート

ロンシールの壁装材

生活空間の中で、内装材としてはもっとも身近な存在の壁紙。ロンシールは意匠性と機能性、健康への安全性などを追及した製品を国内大手ディストリビューターへ供給しています。



日常の中で活躍

ロンシールの車両用床材や機能性フィルム

建築用床材で培った技術をさらに高め、鉄道・バスなどの車両用床材へ展開しています。また、高い加工・配合技術及び品質管理により、半導体・電子部品用などの機能性フィルム分野へも進出しています。

防水事業部

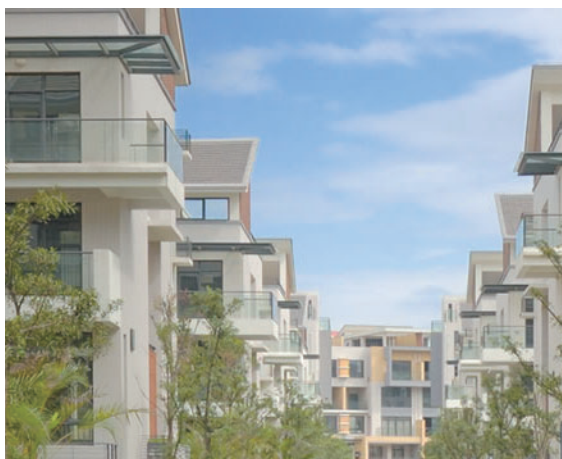


建築物の屋上をしっかりと見守る

環境問題まで見据えた、ロンシールのシート防水システム

国内メーカーとして初めて、防水シートの開発・製造に成功し、安心と信頼の防水を50年以上築き上げています。防水材料の基本性能の向上はもとより、環境との調和、資源リサイクルの問題など、防水技術の枠にとどまらない進化を追及してきました。

住宅事業部



高品質なシステム防水を住宅メーカーへ供給

ロンシールの高品質なシステム防水は、多様化する戸建住宅、集合住宅に応じ、資産価値を高める機能付与した商品を提案しています。

塩ビ樹脂について

地球環境を守る塩ビ樹脂

当社は、1947年に塩ビ素材を使った製品を発売して以来、多様な塩ビ製品をさまざまな産業へと送り出してきました。その原料である塩ビ樹脂は、プラスチック素材の中でも地球資源への負荷が最も少なく、リサイクル性にも優れた省資源型素材として高い評価を集めています。

また、他のプラスチックに比べ、製造時に発生するCO₂量が少ないことも特徴です。さらに、安全性の高さから世界各国で医療機器や食品パッケージにも採用されており、人と地球にやさしい素材として、毎日の暮らしのさまざまな場面で役立っています。

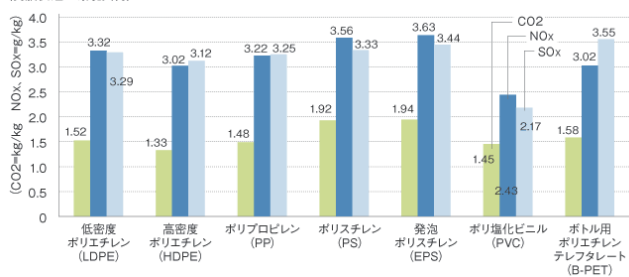
環境負荷物質の発生が少ない素材

製品の製造段階で発生する環境負荷物質にはCO₂(二酸化炭素)、SO_x(硫黄酸化物)、NO_x(窒素酸化物)があります。環境負荷物質を比較すると、CO₂は1.45kg/kg、NO_xは2.43g/kg、SO_x2.17g/kgで、CO₂は他の汎用樹脂に比べて総じて低く、特にNO_x、SO_xでは汎用樹脂の中で最も低いレベルにあります。そのため環境負荷物質の面からも優れた素材として再評価されています。

出典：塩ビ工業・環境協会ホームページ(2022.02.01)

● 汎用樹脂製造のLCIデータ

〈樹脂製造の環境負荷〉



出典：塩ビ工業・環境協会ホームページ資料
 ((一社)プラスチック循環利用協会
 「石油化学製品のLCIデータ調査報告書」2009.3参照)

省資源・省エネ型の素材

塩ビの主原料は、地球上に無尽蔵にある天然塩を分解してできる塩素と、石油から得られるエチレンです。多くのプラスチック素材は石油100%原料とするのに比較して、塩ビは省資源で製造できる素材です。生産工程でのエネルギー量も他のプラスチックに比べて格段に少ないため、省エネルギー型素材とも呼ぶことができます。

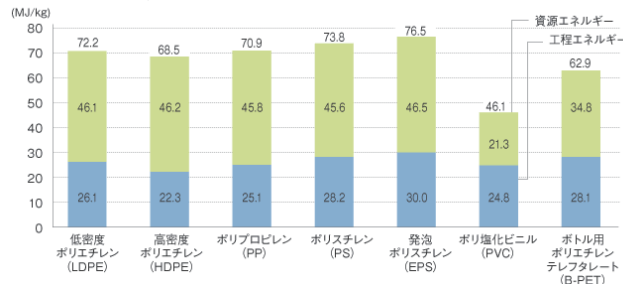
代表的な汎用樹脂のLCI(ライフサイクルインベントリ)を比較すると、石油採掘から樹脂製造段階までの工程エネルギーは22.3~30.0MJ/kgで、各種樹脂間にそれほど大きな差異はありません。しかし資源エネルギーについては、石油からの炭化水素を主とする樹脂が45.6~46.5MJ/kgであるのに対して、その重さの半分を超える割合を塩素が占める塩ビは21.3MJ/kgと他樹脂の半分以下であり、負荷が少ないことがわかります。

塩ビの工程、資源の合計エネルギー負荷(46.1MJ/kg)は、包装材料によく用いられる低密度ポリエチレン(LDPE)(72.2MJ/kg)の64%となり、塩ビ樹脂は、エネルギー負荷の最も少ない優れた素材といえます。

出典：塩ビ工業・環境協会ホームページ(2022.02.01)

● 汎用樹脂製造のLCIデータ

〈樹脂製造のエネルギー消費量〉



出典：塩ビ工業・環境協会ホームページ資料
 ((一社)プラスチック循環利用協会
 「石油化学製品のLCIデータ調査報告書」2009.3参照)

環境対応製品 遮熱防水工法

屋根の温度を下げて、ライフサイクルコストも下げる

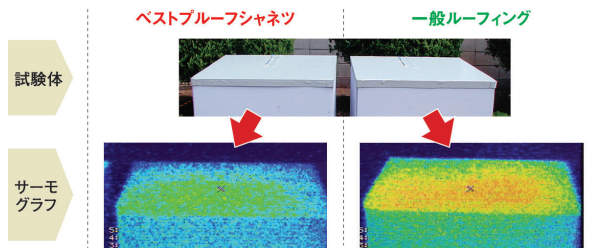
太陽の光が建物にダメージを与え、建物寿命を短くする事実をご存知ですか。太陽熱を屋根面ではね返す「遮熱防水工法」は、建物を熱から保護することで、冷房費を削減させるとともに耐久性に優れているので、改修サイクルを大幅に延長でき、建物のライフサイクルコストの低減を実現します。

また、ヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化の防止の効果も期待できます。ロンシールの「遮熱防水工法」は、優れた防水性能をそのままにハイレベルの遮熱性能をプラスして、ライフサイクルコストの低減と地球環境対策の両面を叶える防水仕様です。

日射反射率最大約70%のハイレベルな遮熱性能

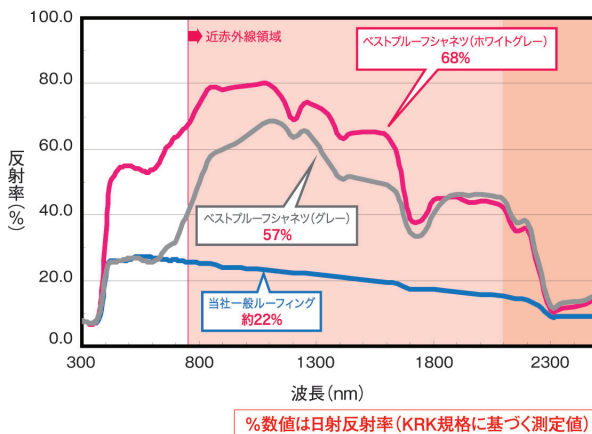
ロンシール独自の技術により、日射反射率を飛躍的に向上します。高い反射性能により、屋上温度を抑制し、躯体の熱変動・蓄熱を抑えることで、建物の保護効果が期待できます。

●ベストブルーフシャネツの遮熱性能をサーモグラフ



ベストブルーフシャネツと一般ルーフィングの表面温度を比較すると、ベストブルーフシャネツの方が温度の上昇が抑えられています。

●ベストブルーフシャネツの分光反射率(グレー)



%数値は日射反射率(KRK規格に基づく測定値)

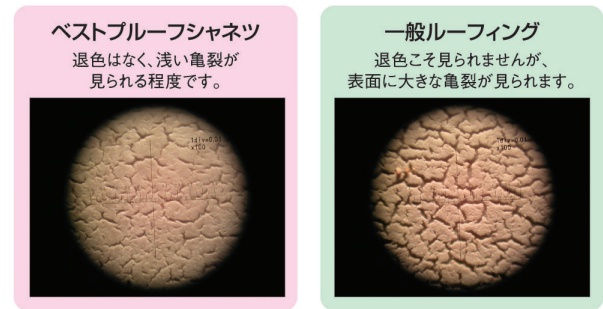
高い耐久性で改修サイクルを延長

ルーフィングにかかる温度が低減するので、一般的なルーフィングに比べ、耐久性が大幅に向上します。建物の改修サイクルの延長や、ライフサイクルコストの低減に貢献します。

また、建物管理の手間を低減できるなど、付帯効果も期待できます。

●表面劣化状態の比較

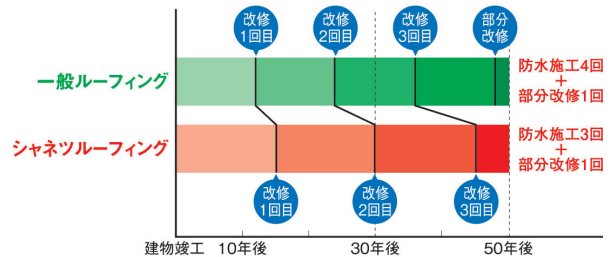
20年相当の促進劣化試験の結果、一般ルーフィングに比べ、ベストブルーフシャネツは、劣化の進行が抑えられています。



試験条件：メタルウェザー照射 1,344時間（照射紫外線量20年相当分）
※防水性能の保証は10年です。

●築後50年の改修回数比較

シャネツルーフィングにより改修回数の低減が図れます。



*新築時からシート防水が採用されたと仮定しています。

*改修サイクル/一般ルーフィング12年、ベストブルーフシャネツ15年と仮定

ヒートアイランド現象の抑制と地球温暖化防止への貢献

屋上の表面温度の低下と冷房排熱の抑制により、ヒートアイランド現象の緩和に貢献します。屋上への高反射率は東京都の対策ガイドラインでも、実効性の高い方法として、採用が推奨されています。また、冷房に必要なエネルギーが少なくなるので、発電に伴う二酸化炭素の排出量も低減し、都市環境のみだけでなく、地球環境にもやさしい防水仕様です。

安全・安心な製品

抗ウイルス技術

床材で暮らしの安全をサポートするという新常識

ロンシールが開発した「ロンプロテクト」技術は、あらゆるものに抗ウイルス機能を付加できる新技術です。

この技術はさまざまな製品に用いることが可能であり、製品に付着したウイルスに対してすぐれた抗ウイルス性を発揮します。

たとえば、日用品などの身の回りのものをはじめ、高層ビルや住宅の床や壁に使用し、建物内の各部位を抗ウイルス化します。

より衛生的で安心な空間づくりをロンシールの「ロンプロテクト」技術が叶えます。



- 病院
病室に加え、手術室やICUなどのウイルスリスクの高い部屋に。
- 学校
校舎内はもちろん、ペンやハサミなどの文房具にも。
- 食品工場や薬品工場などの研究生産施設
検査室や更衣室、食堂など施設内を清潔に。
- 老人ホーム
免疫力の低い高齢者が集まる、大広間や食堂に。
- 保育園・幼稚園
教室や食事室、多くの子供が触れるおもちゃに。
- 飲食店
調理場調理器具など、食品を扱う場所や物に。
- スーパー・コンビニなどの小売店
カートやエスカレーターなど、不特定多数の接触が多い所に。
- バス・電車などの乗り物
シートやつり革、手すりなど、不特定多数の接触が多い所に。
- 住宅
床や壁はもちろん、イスやテーブルなどの家具にも。

当社の抗ウイルス性床材はSIAA登録商品



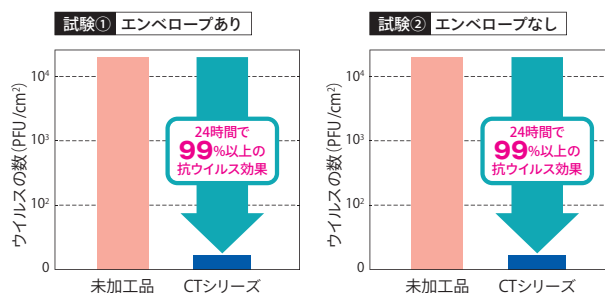
【CTシリーズ・サニタリウム】

有機合成抗ウイルス剤・塗装コーティング層
JP0612406A0003X
JP0612406A0005Z

【ロンウォールガードL】

有機合成抗ウイルス剤・練り込み表層
JP0612406A0004Y

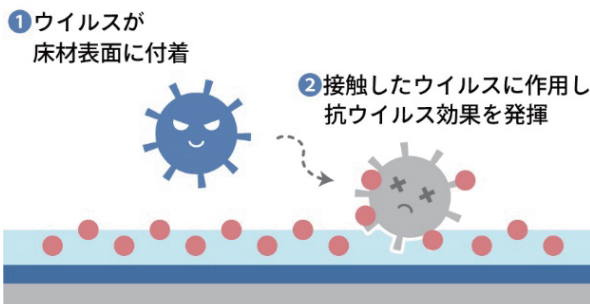
製品上の特定ウイルスの数を減少させます。
SIAAマークはISO21702法により評価された結果に基づき抗菌製品技術協議会ガイドラインで品質管理・情報公開された製品に表示されています。
・抗ウイルスの加工は病気の治療や予防を目的とするものではありません。
・SIAAの安全基準に適合しています。



試験期間：一般財団法人日本繊維製品品質技術センター
試験方法：ISO21702法

※本検証は試験期間での結果であり、使用条件や使用方法により効果が異なる場合があります。
※本製品は医薬品や医療などを目的としたもの、および感染予防を保証するものではありません。

「ロンプロテクト」技術は、抗ウイルス効果を発揮



低トータルVOC化による、 室内空間のシックハウス対策・シックスクール対策

人にやさしい生活環境の実現には、室内空間に発生する揮発性有機物質(VOC)の低減が必要不可欠です。ロンシールでは、行政のガイドラインや基準に定められた個別物質の数値をクリアするだけでなく、揮発するその他の有機物質を大幅に低減(低トータルVOC化)しています。

また、公共の場所や施設などで使用されるシーンを考慮し、ほとんどの製品が抗菌仕様です。

ロンシールは一歩進んだ技術力で、人にやさしい生活環境のための製品開発をすすめています。

F☆☆☆☆より厳しい独自の低トータルVOC化で シックハウス・シックスクール対策を追求

ロンシールでは、行政のガイドラインや基準に定められた個別物質の数値をクリアするだけでなく、揮発するその他の有機物質すべてを大幅に低減(低トータルVOC化)しています。しかも、ロンシールの接着剤はすべてがF☆☆☆☆品です。床材を接着した施工体での放散速度※でも業界トップクラスの低トータルVOC化を実現しています。

※JIS A 1901「建築材料の揮発性有機化合物(VOC)、ホルムアルデヒド及び他のカルボニル化合物放散測定方法—小型チャンバー法」に準拠した計測方法で測定。

●床材から発生するVOCの室内濃度換算値(※)

単位 $\mu\text{g}/\text{m}^3$

床材	床材単体		施工体	厚生労働省 指針値
	ロンリウム プレーン	ロンリウム オブセルCT	ロンリウム プレーン	
接着剤	—	—	ロンセメント エコ	
トルエン	<1	<1	6	260
キシレン	<1	<1	<1	200
パラジクロロベンゼン	<1	<1	<1	240
エチルベンゼン	<1	<1	<1	3800
スチレン	<1	<1	2	220
テトラデカン	<1	<1	<1	330
TVOC(トータルVOC)	21	143	44	400

※換気7日後に測定した放散速度から、

独自の換算方法(デンマークモデル)で濃度換算。

※測定値から換算した値であり、保証値ではありません。

衛生性が求められる施設にも優れた抗菌効果を発揮

病院や各種の福祉施設、食品加工工場、研究所などでは、菌の繁殖を抑制する方策が求められています。

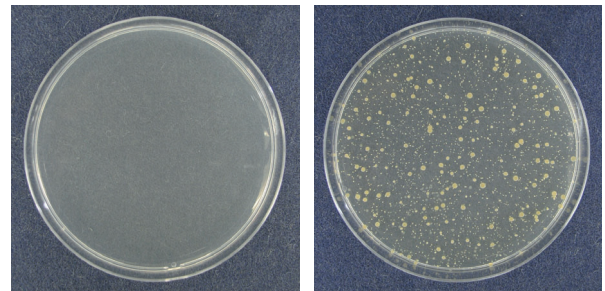
抗菌性能を標準装備したロンシールの床材は、このような衛生性が求められる各施設で、優れた抗菌効果を発揮できます。

〈抗菌性能の評価〉

JIS Z 2801では床材に菌液を滴下し、24時間後、比較試験体(滅菌ポリエチレン)に対し1%に菌が減少することを抗菌活性値2といえます。この抗菌活性値が2以上のものを抗菌効果がある製品とされています。

試験結果から、一般のビニル床シートではこの値が0.1(菌の生存率約80%)を指しましたが、ロンシールの製品は2.0以上の値を示しています。

●試験菌:黄色ブドウ球菌



抗菌性ビニル床シート

一般ビニル床シート

●試験結果

製品名	抗菌活性値	
	黄色ブドウ球菌	大腸菌
ロンリウム プレーン	>2.0	>2.0
ロンプロテクト インレイド柄	>2.0	>2.0
サニタリウム	>2.0	>2.0
ロンリウム オブセルCT	>2.0	>2.0
非抗菌性ビニル床シート	0.2	0.1

製品と製品開発

研究開発

快適な未来を創造するロンシールのテクノロジーの創生

ロンシールが日本ではじめて塩化ビニル製品の製造に成功してから半世紀以上経ちます。

省資源性に優れた、地球にやさしい塩ビ製品を主軸に、誰もがより快適で健康的な暮らしを送れるよう、時代のニーズを見据えた新しい技術の創生に取り組んでいます。

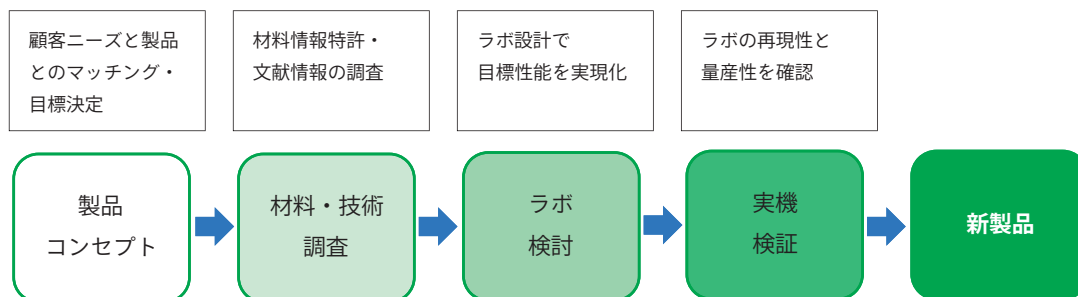
テクノロジーの創生を担う、ロンシールの研究開発についてご紹介します。

ロンシールにおける研究開発

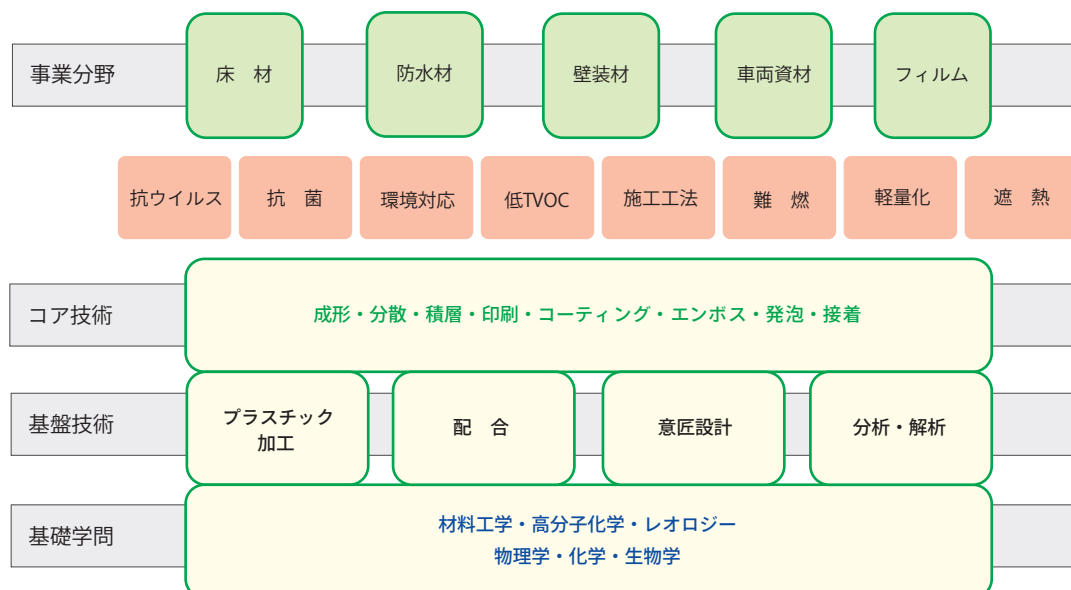
高度な技術と品質で快適生活空間を創造し、社会に貢献するために、人と地球にやさしいものづくりを目指します。

この理念をもとに、ロンシールにおける研究開発は、基盤技術であるプラスチック配合、加工とコア技術とを融合させた革新的な技術開発により、既存事業分野の成長と新製品・新技術・新規事業の創出を行う事を目標として活動しています。近年の急速な市場変化やグローバルな競争に対し、最適な提案をタイムリーに行うために、研究開発部門と事業・営業部門との連携を深め、スピード感にあふれた研究開発活動を行っています。

新製品までのフロー



技術開発



CSRの取り組み

CSRに対する考え方

当社は、「ステークホルダーの信頼に応え続けること」を経営の基本としています。

企業理念である「人と地球にやさしいものづくり」の実現を図ると同時に社会課題の解決にも積極的に取り組むことで社会的責任を果たしていきます。

これからもすべてのステークホルダーの皆様から信頼される企業を目指し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

持続可能な社会の実現に貢献

当社は、CSR活動を通じて持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に貢献していきます。

持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

SDGs17のゴール



CSRの取り組み

CSRの取り組み内容

		取り組み内容	SDGsとの関連性
環境 (Environment)	安全・安定操業	<ul style="list-style-type: none"> ・安全最優先 ・安全衛生委員会、環境安全衛生委員会 ・5S活動とパトロール ・安全教育 ・安全大会 	  
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステム ・地球温暖化防止 ・環境保全の推進 ・産業廃棄物削減 ・リサイクルの取り組み ・地域清掃ボランティア 	     
社会 (Social)	働きがいのある職場環境	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションセンター設立 	  
	ダイバーシティ	<ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍推進、次世代育成支援対策推進 ・子育て、介護支援 ・定年退職者の再雇用 	  
	雇用の確保と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代エンジニアたちを応援 	 
	品質	<ul style="list-style-type: none"> ・品質マネジメントシステム ・品質保証委員会 ・品質向上の取り組み 	 
ガバナンス (Governance)	ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方 ・コーポレート・ガバナンス体制 ・企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由 	 
	取締役		
	内部統制	<ul style="list-style-type: none"> ・内部統制システム 	
	コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス体制 ・リスク管理体制 ・公正取引 	

ロンシールグループ CSR基本方針

私たちは、企業理念「人と地球にやさしいものづくり」の実現に向けて、
以下の基本方針を共有・実践します。

1. 事業活動を通じた持続可能な社会の実現

・地球環境に配慮した製品・サービスを通じて社会課題を解決し、事業活動に関わるすべての人々の信頼に応え続け、持続可能な社会の実現に貢献します。

2. 地球環境の保全

・地球環境問題に事業活動を通じて主体的に取り組み、幸せに暮らし続けられる社会の実現に貢献します。

3. 安全・安定操業の確保

・安全はすべての基本であり、安全最優先であることを認識し、事業活動に関わるすべての人々の安全の確保に取り組みます。

4. 働きがいのある職場環境の実現

・従業員に多様な働き方を提供し、心身ともに健康で率直に意見や行動を示せる働きがいのある職場環境を実現します。

5. 人権尊重と誠実な事業活動

・すべての人々の人権を尊重した事業活動を展開していきます。
・コンプライアンスを徹底し、事業活動に関わるすべての人々とのコミュニケーションを基本とした誠実で透明かつ健全な事業活動を通じて、企業の持続的な成長と企業価値の向上を目指します。

環境 (Environment)

安全・安定操業



環境安全方針

社会の一員として、地球環境、地域環境の保全と従業員の安全・健康の確保を事業活動の基盤と認識し、環境に優しい技術・商品の提供をもって社会の発展に貢献します。

- ・関係する諸法令および社内規則を遵守し、環境・安全に配慮した事業活動を行います。
- ・安全は全ての基本であり、何よりも優先させ、労働災害ゼロを目指します(安全最優先)。
- ・経営方針・環境方針に基づいた環境目標を設定し、目標達成に向けて計画的に活動します。
- ・省エネ・省資源・リサイクル活動を推進します。
- ・環境保全に配慮した製品・工法の開発を推進します。
- ・環境施設や生産設備の維持管理を適切に行います。
- ・環境マネジメントシステムの運用状況を随時チェックし、環境パフォーマンスを継続的に改善します。

安全最優先

当社は、従業員と協力会社の全ての人々の健康と安全確保が企業活動において最優先であることを認識し、心身ともに健康で安心・安全に働けるように安全活動を行っています。



安全最優先(土浦事業所)

安全衛生委員会、環境安全衛生委員会

当社は、本社(本社分室、大阪支店、各営業所を含む)と土浦事業所における環境・安全・衛生・防火に係わる事項について、調査・審議する体制について定め、各部門に指示・徹底をはかり、環境に配慮した安全で快適な職場の確立を目的とした活動を行っています。

また、月に1度、本社では安全衛生委員会、土浦事業所では環境安全衛生委員会を開催し、労働災害、環境汚染に対する再発防止対策の審議や法律、条例情報の共有化を行っています。

5S活動とパトロール

当社は、5S活動^{※1}に取り組んでいます。整理整頓された状態に保つことで生産ラインや設備の変調に気付きやすくなります。

土浦事業所では、月に1度、総合パトロールを行ない、優れたところや、改善すべきところについて環境安全衛生委員会で話し合い、労働災害が起きない安全な職場環境作りに努めています。

※1 整理、整頓、清掃、清潔、躰を行うことで、職場環境を整え、働きやすくしていく活動

安全教育

土浦事業所では、「指差呼称」^{※1}の定着化を図っています。事業所内の通路、作業前、作業中での確認作業で「指差呼称」を行い、安全意識の向上を図っています。

また、社外安全専門家(中央労働災害防止協会)を活用して安全教育を行っています。5Sの基礎知識教育、KY^{※2}教育による危険に対する感受性の向上、各職場で正しく安全衛生活動の指導が出来る安全キーパソン育成等を行い、安全活動を活性化させています。

※1 対象物・方向に向かって指を差し、声を出して安全確認する行動
※2 不安全な状態、不安全な行動である危険を予知する活動

安全大会

土浦事業所では、年に1度、安全大会を開催しています。無災害部署と3S活動^{※1}部署の表彰、安全講和、安全活動等について報告を行い、従業員の安全意識向上に取り組んでいます。

※1 整理、整頓、清掃を行い、職場環境を整備する活動



安全大会(土浦事業所)

環境



環境マネジメントシステム

土浦事業所においてはISO14001※1:2015の認証を取得しています。社内の内部監査、外部機関の審査を受け、マネジメントシステムの向上を図っています。

※1 環境マネジメントシステムに関する国際規格

地球温暖化防止

当社は、地球温暖化の原因となる温室効果ガス(主に二酸化炭素:CO₂)を削減するために照明のLED化、高効率設備の導入、生産効率の向上などに積極的に取り組んでいます。その他、排気ガス削減のために電動フォークリフトの採用を行っています。



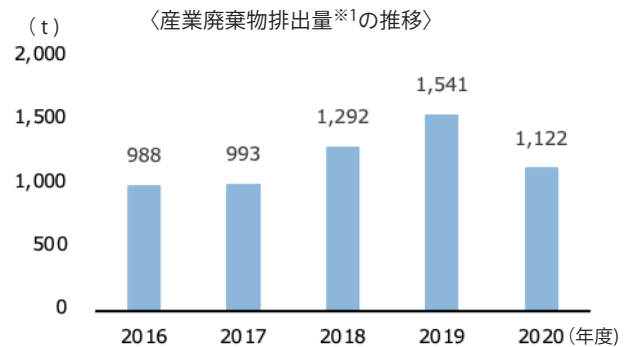
※1 排出量は「温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度」の算出方法に基づいています。

環境保全の推進

当社は、土浦事業所の近隣にお住まいの皆さまに安心して生活していただくために、各種規制を遵守しております。大気の臭気、排水の水質、騒音等の測定を定期的に行い行政への報告を行っています。

産業廃棄物削減

当社は、産業廃棄物削減のために廃棄物の排出量削減、分別、リサイクルに取り組んでいます。1年間の産業廃棄物排出量の数値目標を1,000t以下とし、3R(Reduce Reuse Recycle)を推進しています。排出した産業廃棄物においては、適正な処分が行われているかを産業廃棄物管理票で管理しています。



※1 土浦事業所の排出量

リサイクルの取り組み

当社は、生産時に発生した端材や規格外品を製品の原材料としてリサイクルしています。また、使用済み段ボール、紙管は外部業者にリサイクルをお願いしています。

地域清掃ボランティア

土浦事業所では、土浦市が主管する「霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦」に賛同し、ボランティア清掃を行っています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が中止になっていますが、引き続き地域清掃活動に努めていきます。



霞ヶ浦・北浦地域ボランティア清掃

社会 (Social)

働きがいのある職場環境



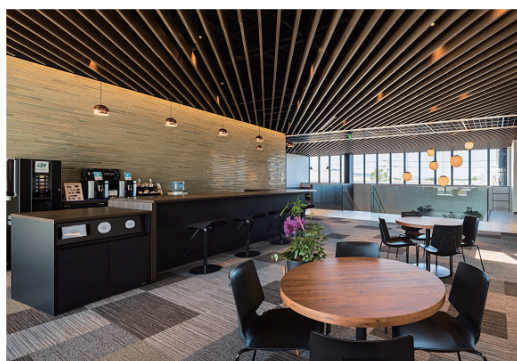
イノベーションセンター設立

当社は、土浦事業所に次世代の研究開発拠点となる「イノベーションセンター」を2021年に設立しました。製品の研究開発における技術革新という“innovation”と、社員同士のコミュニケーションを通じて様々な発想を次世代へ進化・発展させる“innovation”の両役割を担います。

当施設は、より高度な技術開発と先進的な製品開発を目指す研究開発としての機能の他、研究者同士や研究開発・製造・管理部門の社員による活発な意見交換や交流の出来るコミュニケーションラウンジ、社員食堂等の福利厚生設備も備えています。



イノベーションセンター（外観）



イノベーションセンター（内観）
（コミュニケーションラウンジ）

ダイバーシティ



女性活躍推進、次世代育成支援対策推進

当社は、女性活躍推進法、次世代育成支援対策推進法に基づいて作成した行動計画に従い、社員が仕事と子育てを両立し、全ての社員が働きやすい環境をつくることによって、その能力を十分に発揮しキャリア形成を行う事が出来るように取り組んでいます。

子育て、介護支援

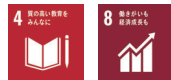
当社は、仕事と生活を両立しながら活躍することを支援するために職場の風土づくりを進めています。出産・育児、介護に関しては休暇規定を設けており、従業員が取得しやすくなっています。

2020年度の女性社員育児休暇取得率は100%です。

定年退職者の再雇用

当社は、長年培った豊富な知識、経験、技術を次の世代に受け継がせるために、定年退職者の再雇用を進めています。

雇用の確保と人材育成



教育の基本理念

教育は経営が期待する以下に定める人材を育成し、かつその過程において従業員の自己表現に寄与するものであります。

- ・ 広い視野を持ち、自らの道を切り開く力を持つ人
- ・ 守るべき社会規範に適應し、時代の潮流に対応する力を持つ人
- ・ 自らの専門性を高め、想像力豊かにものをつくり出していく力を持つ人

教育制度

当社は、新入社員、担当職、指導職、幹部職毎の階層別教育、ハラスメント・情報セキュリティ・コンプライアンスに関するテーマ型教育、資格取得や通信教育を利用した自己啓発の選択型教育を行っています。

次世代のエンジニアたちを応援

NHKが1988年より開催しているロボコン(アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト)の競技フィールドに当社製品のロンリウムが使用されています。未来のエンジニアたちの知恵と汗のメカニズムを裏方として支えています。当社は、次世代のエンジニアたちをこれからも応援していきます。



ロボコンの様子

品質



品質方針

環境に優しい事業活動を基本として、継続的に質の向上を図り、社会及び顧客要求に応じていきます。

- ・ スケジュールに則り、スピード感をもってPDCAサイクルを回し、品質改善とコスト削減を実施
- ・ 各部署の連携によるクレームの低減
- ・ 国際規格の情報収集及びその取得
- ・ 環境変化に伴うリスク管理体系の確立

品質マネジメントシステム

当社は、ISO 9001^{*1}:2015及びJIS Q 9100^{*2}:2016の認証を取得しています。社内での内部監査、外部機関での審査を受け、マネジメントシステムの向上を図っています。

※1 品質マネジメントシステムに関する国際規格

※2 国際航空宇宙品質グループ(IAQG)によって作成されたISO 9001に航空、宇宙および防衛産業の要求事項を追加し、日本で制定された世界標準の品質マネジメント規格

品質保証委員会

当社は、品質保証に関わる事項、全社の品質方針、ラインの実施状況の監査、重大クレームの対処、対策、社外方針等品質に関する事項を推進する目的として品質保証委員会を設置しています。

品質向上の取り組み

当社は、お客様に安心、安全にお使いいただくため、品質チェックをしています。品質に関してのお客様からのご相談やご意見を社内で共有して、品質向上を図りお客様満足度向上に努めています。また、設備の定期メンテナンスや老朽化更新等を行うことで、継続的な品質の維持・改善、生産上のトラブル等のリスクの軽減に努めています。



品質確認の様子

ガバナンス (Governance)

ガバナンスの強化



コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「ステークホルダーの信頼に応え続けること」を経営の基本として捉え、コーポレート・ガバナンスを一層充実させるために、経営のスピードアップと事業遂行力の向上、企業行動の透明性と健全性の確保、適時かつ適切な情報開示及びアカウンタビリティ（説明責任）の充実に努めております。

コーポレート・ガバナンス体制

取締役会

取締役会は、監査等委員でない取締役6名（うち社外取締役1名）、監査等委員である取締役3名（うち社外取締役2名）で構成し、客観的かつ公正な社外取締役の意見を踏まえた透明性の高い経営の実現を図っています。取締役会は、月1回開催することを原則とし、その他必要に応じて随時開催して法令、定款、取締役会規則などに定める事項の決定を行い、また、業務の執行状況等に関する報告を受けています。

監査等委員会

監査等委員会は、取締役3名（うち社外取締役2名）で構成し、内部監査部門から内部監査等の結果の報告を受けるなどを当社の内部統制システムを活用するとともに、必要に応じて当社及び子会社の役職員に対して報告を求めることができる体制としています。

内部統制委員会

内部統制委員会は、委員長（社長が指名する役員）及び財務報告に係る内部統制の推進のため全ての執行役員で構成し、財務報告に係る内部統制の整備と運用の徹底を図っています。

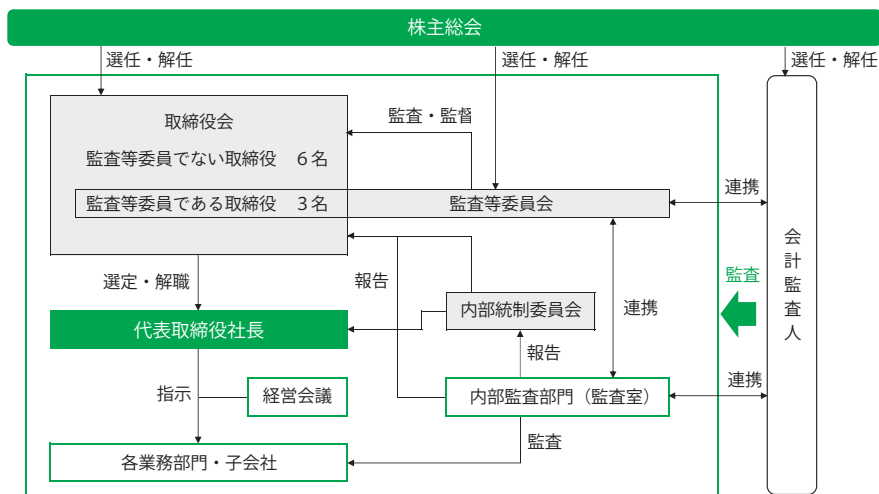
経営会議

経営会議は、取締役を兼務する執行役員5名をもって構成し、代表取締役社長決裁事項のうち重要案件について審議しています。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、経営の意思決定機能及び監督機能と、業務執行機能の分離を図るため執行役員制度を導入しております。また、当社は、2016年6月に開催された第73回定時株主総会の決議を経て監査等委員会設置会社へ移行いたしました。監査等委員会設置会社では、監査等委員である取締役で構成される監査等委員会を設置し、経営の監査・監督機能を果たします。また、取締役会では法令及び定款に定められた事項並びに重要な業務に関する事項等を決定し、重要な業務執行を執行委員に委任することにより、業務執行の迅速化を図るとともに、取締役会の業務執行者に対する監督機能を強化しています。

コーポレート・ガバナンス体制図 (2021年3月末時点)



取締役(2021年6月末時点)

代表取締役社長 社長執行役員	大村 朗
取締役 常務執行役員	蓮沼 修
取締役 常務執行役員	井関 直彦
取締役 常務執行役員	常盤 昭夫
取締役 執行役員	石澤 英夫
取締役(社外) 独立役員	神長 俊樹
取締役 常勤監査等委員	前田 篤
取締役(社外) 監査等委員 独立役員	大石 秀夫
取締役(社外) 監査等委員	河本 浩爾

ガバナンス (Governance)

内部統制



内部統制システム

当社は、内部統制システム構築に関する基本方針を定め、取締役及び執行役員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制を構築しております。また、その運用状況を年1回取締役会にて報告しています。

コンプライアンス



基本方針

当社は、公正な競争を通じて利潤を追求するとともに、広く社会にとって有用な存在であり続けるため、コンプライアンスを実践することを基本方針としています。

行動指針

当社は、法令・社会規範を遵守するための行動規範を示した「ロンシールグループ 行動指針」を定め、推進と徹底を図っています。

コンプライアンス体制

当社は、コンプライアンスの推進と徹底を図るため、統括部門を定め、統括部門は、コンプライアンスの「体制に関する構築・改変」、「推進のための諸施策」、「教育」に関して企画・立案のうえ、推進・実行しています。統括部門は、コンプライアンス状況を把握のうえ、問題が発生した場合又はその恐れがある場合、部門責任者と連携し対処しています。

また、従業員がコンプライアンスに違反または違反の恐れがあると知り、部門責任者への相談が困難な場合の相談窓口として、コンプライアンス相談窓口を設置しています。

リスク管理体制

当社は、「リスク管理基本規程」に則り、リスクを未然に回避すること及び万一リスクが発生した場合に当社の被害を最小限に食い止めるためのリスク管理体制を整備するとともに、役職員への周知徹底を行っています。

また、全社のリスク管理状況を年1回取締役会で報告しています。

公正取引

当社は、原材料、副資材、委託加工製品、設備等を外部より調達しています。調達にあたっては「ロンシール購買指針」に則り、公正・公平な取引を前提として、良きパートナーシップを築くことによる相互理解と信頼に基づいた購買業務を行っています。

購買指針

当社は、購買担当役職員が原材料、副資材、委託加工製品、設備等を外部より調達するにあたり、購買担当役職員が購買取引先との購買業務を進めるために遵守すべき行動を「ロンシール購買指針」に示しています。

購買業務を行うにあたっては、以下の基本原則に則って行動しています。

- 1.すべての購買取引先に対しては公正・公平な対応を行わない、特定取引先に対して有利に或いは不利な対応を行いません。
- 2.購買業務の遂行に関して法律、社会通念および社内規程、規律の遵守に努め、高い倫理観を持って行動し、会社信用の維持向上に努めます。
- 3.取引先は国内及び国外に開放し、複数見積もりによる公平性のある購買業務を行います。
- 4.購買意志のない見積もりの依頼は行いません。

会社概要

概要

商号	ロンシール工業株式会社
本社所在地	東京都墨田区緑四丁目15番3号
創業	1928年9月(昭和3年)
設立	1943年12月(昭和18年)
資本金	50億791万円 東証二部上場(2021年3月現在)
売上高	単独 153億円(2021年3月期) 連結 171億円(2021年3月期)
本社	東京都墨田区緑四丁目15番3号
本社分室	東京都墨田区緑四丁目20番7号
事業所	茨城県土浦市東中貫町5-3
営業所	札幌、仙台、北関東、土浦、東京、横浜、名古屋、大阪、広島、福岡
事業内容	プラスチック製品の製造・販売
従業員数	[単体] 390名(2021年3月現在)

グループ会社

Lonseal Inc.	(米国カリフォルニア州)
株式会社ロンテクノ	(東京都豊島区)
龍喜陸(上海)貿易有限公司	(中国上海市)



お問い合わせ先

ロンシール工業株式会社 CSR推進室

〒130-8570 東京都墨田区緑四丁目15番3号 TEL : 03-5600-1809 E-mail : csr@lonseal.co.jp

企業情報について

ロンシール工業株式会社の事業内容、IR情報については、当社ウェブサイトを通じて公開しております。

【事業内容】 <https://www.lonseal.co.jp/> 【IR情報】 <https://www.lonseal.co.jp/ir/>